

## 臨床医学

### 内科学講座

#### 消化器・肝臓内科

教授：田尻 久雄	消化器病学(消化管・膵臓)
教授：伊坪真理子 (兼任)	消化器病学(肝臓)
教授：銭谷 幹男 (兼任)	消化器病学(肝臓)
教授：大草 敏史	消化器病学(消化管)
教授：高木 一郎	消化器病学(胆道・肝臓・膵臓)
教授：相澤 良夫	消化器病学(肝臓)
教授：西野 博一	消化器病学(消化管・膵臓)
准教授：小井戸薫雄	消化器病学(消化管)
准教授：石川 智久	消化器病学(肝臓)
准教授：穂苅 厚史	消化器病学(肝臓)
講師：松岡 美佳	消化器病学(消化管)
講師：小池 和彦	消化器病学(肝臓)
講師：須藤 訓	消化器病学(消化管)
講師：宮川 佳也	消化器病学(消化管)
講師：有廣 誠二	消化器病学(消化管)
講師：小野田 泰	消化器病学(肝臓)
講師：安部 宏	消化器病学(肝臓)

#### 教育・研究概要

##### I. 消化管に関する研究

###### 1. 近赤外光を用いた癌分子標的特異的治療法の開発

癌治療用モノクローナル抗体と近赤外蛍光プローブを用いて、癌分子標的特異的な蛍光イメージングとその治療を近赤外光の照射のみで行う方法を臨床前研究(動物モデル)にて明らかにしてきた。この方法を繰り返し施行することにより腫瘍を再発なく根治することも可能であった。

###### 2. 亜鉛含有ポラプレジンク注腸の潰瘍性大腸炎(UC)患者に対する有効性

ポラプレジンク注腸を併用することで、中等症から重症の潰瘍性大腸炎を内視鏡的にも臨床的にも有意に改善した。内視鏡的な有意な変化は、注腸薬の届く範囲である直腸からS状結腸まで認められた。ポラプレジンク注腸は、潰瘍性大腸炎の粘膜治療をもたらす新たな有用な併用療法であることが示唆された。

###### 3. 画像強調観察を用いた大腸鋸歯状病変の内視

##### 鏡的特徴の検討

大腸鋸歯状病変は孤発性 Microsatellite instability (MSI) 陽性大腸癌の前駆病変であることが明らかになっており、serrated neoplastic pathway は adenoma carcinoma sequence (ACS), de novo 大腸癌に次ぐ、第三の発癌経路であると認識されている。画像強調観察を用いた大腸鋸歯状病変の内視鏡的特徴を明らかにし、他の疾患との鑑別診断能を検討するとともに、術後の病理学的検索により大腸鋸歯状病変の malignant potential を明らかにした。

###### 4. 潰瘍性大腸炎に合併する腫瘍性病変検出における 5-Aminolevulinic acid (5-ALA) を用いた蛍光内視鏡の有用性の検討

長期罹患 UC に合併する腫瘍性病変のうち、通常光で検出しづらい腫瘍性病変の検出には、5-ALA を用いた蛍光内視鏡による光線力学的診断が有用である可能性が示唆された。

###### 5. 炎症性腸疾患 (IBD) 患者における成分栄養剤 (エレンタール®) 併用大腸内視鏡検査前処置法の有用性

成分栄養剤であるエレンタール® を併用した前処置法は、当日のポリエチレングリコール (PEG) を有意に減量でき、良好な腸管洗浄度を得ることが出来る。また、被験者の受容性と安全性の点でも優れており、IBD 患者に対する大腸内視鏡検査の有効な前処置法と考えられた。

###### 6. クロウン病患者の赤血球膜中アラキドン酸重量比

健常人に比してクロウン病患者の赤血球膜中アラキドン酸重量比は有意に高く、かつリノール酸重量比は有意に低いことから、クロウン病患者の delta 6-desaturase 活性が亢進している可能性が示唆された。

##### II. 肝臓に関する研究

###### 1. 原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の長期予後に関する検討

PBC における臨床所見、血液生化学検査値、さらに肝生検所見も加え予後に寄与する因子を多角的に統計学的に解析している。

###### 2. 肝硬変における栄養学的不均衡

食物摂取頻度調査 (FFQg) による肝硬変の栄養学的背景を検討している。個々の症例に対して最適な栄養介入法の開発を試みている。

### 3. 非アルコール性脂肪肝疾患 (NAFLD) に関する研究

NAFLD は、メタボリック症候群と重複する病態が多い。栄養学的不均衡と病態との関係を検討するとともに、新たな栄養介入の可能性を模索している。また単純性脂肪肝と非アルコール性脂肪性肝炎の鑑別にCK18フラグメントが有用であることを示した。非B非C型肝硬変の疫学的検討で、近年その割合が増加し、男性ではアルコール過飲が、女性ではNASH関連が主な病因であり、アルコール性肝硬変では肝癌の発生に積算飲酒量が関与することを明らかにした。

### 4. 睡眠時無呼吸症候群 (SAS) と肝代謝不均衡の検討

SAS重症度と栄養学的不均衡、肝機能障害との関係について検討した。さらに、間接熱量計を用いて栄養素別の代謝特性を検討している。

### 5. 自己免疫性肝炎 (AIH) モデルマウスにおけるNKT細胞の動態解析

NKT細胞とサイトカイン動態を検討し、AIHにおける免疫動態の変動についても解析した。

### 6. 慢性肝炎の臨床病理学的検討ならびに治療効果

臨床病理学的にウイルス慢性肝炎、自己免疫性肝疾患における肝病理所見と血液生化学検査値の相関について検討している。慢性B型肝炎の核酸アナログ製剤使用での治療反応性を、耐性株出現を経時的な遺伝子解析と治療反応性について解析し、新たな併用療法の可能性について検討している。C型慢性肝炎に対するPeg-IFN/Ribavirin治療の効果は、早期治療反応性が治療効果に関わる因子であり、特にゲノタイプ1bではIL28B遺伝子多型、ウイルス変異、脂質代謝の影響が大きいことを示した。

### 7. 肝細胞癌 (HCC) に関する研究

拡散強調画像に加え種々造影剤使用によりMRI撮像特性を利用した蓄積、予後を含めた肝細胞癌症例の臨床的解析を実施している。また肝細胞癌の予後予測因子について検討するとCRPとアルブミン値が肝細胞癌の予後不良因子であることを明らかにした。加療前の新たな予後予測指標の算定法について検討している。

### 8. 空腹時<sup>13</sup>C-glucose呼吸試験 (FGBT) による肝臓インスリン抵抗性診断試験の開発

ヒトの肝臓糖代謝を<sup>13</sup>C-glucose呼吸試験で評価するため、健常ボランティアと耐糖能異常患者に100mgの<sup>13</sup>C-glucoseを投与し、呼吸中<sup>13</sup>CO<sub>2</sub>の動態を検討した。FGBTは、肝臓インスリン抵抗性

を評価するうえで、簡易かつ感度の良い検査法である。特に、脂肪肝症例での肝臓インスリン抵抗性を評価するうえで有用であった。

### 9. TGF-β活性化反応を利用した肝障害診断法の開発

TGF-βのアンカー蛋白は組織のプロテアーゼで切断される。その切断面を特異的に認識する抗体を用いて、血液中のアンカー蛋白断片 (LAP-D) 量を計測することでTGF-β活性化反応を定量的に測定するELISAを開発し、肝障害患者血漿1200サンプルを測定した。また、肝生検組織を用いて、LAP-Dの分布を検討した。血中LAP-Dは肝臓での線維化反応の活動性を反映していた。特に、慢性C型肝炎症例において、インターフェロン・リバビリン併用療法を行うと、血漿LAP-D濃度は有意に低下した。検出感度以下を継続した症例ではSVRを得られた。

### 10. 急性肝不全におけるTGF-β活性化

Toxin Receptor Cell-Knockout (TRECK) 急性肝不全モデルマウスを作製し、TGF-β活性化を反映するLAP-Dの血中と肝組織での発現を検討した。血中TGF-β LAP-D濃度は、組織のTGF-β活性化を大変良く反映しており、急性肝不全におけるTGF-β活性化と病態の関連を明らかにする上で有用であった。

## Ⅲ. 膵臓に関する研究

自己免疫性膵炎の症例を用いてステロイド治療前後の治療効果判定に拡散強調画像の拡散係数値が有効であることを明らかにした。拡散強調画像は、自己免疫性膵炎の病勢を反映することが示唆された。WT1を標的とした免疫療法は化学療法を併用することにより膵臓癌に相乗的治療効果をもたらすことを明らかにした。

### 「点検・評価」

平成23年度は、原著論文計23編、総説25編、著書12冊、その他32編、学会発表は116件と研究業績は昨年と同じく堅調であり、臨床研究の成果が論文として刊行されている。国内外の研究施設ならびに学内の基礎医学講座とのtranslational researchが円滑に推移しており、さらに継続進展させていく予定である。質の高い臨床を支えるためには研究の活性化が欠かせない。消化器・肝臓内科の外来・病棟における診療実績数は病院内で常に上位であり、日常診療がきわめて多忙ななか、スタッフ全員が教育・研究にも努力している。大学病院に勤務する医

師にとって、とくに診療、教育、研究のバランスをとることが重要な課題であり、個々のモチベーションの向上にも直結する。したがって、若い先生方にも積極的に学会や研究会に出席できるように勤務シフトを工夫している。日本消化器病学会関東支部では、平成20年12月から研修医、専修医（レジデント）の発表のなかから優秀演題に対して奨励賞を設けているが、当科は現在まで研修医奨励賞5名、専修医奨励賞7名が受賞している。この受賞数は関東支部のなかでトップであり、2位以下の他の大学病院を大きく引き離している。当科の専門修得コースではレジデント教育に熱心に取り組んでいること、豊富な指導陣を擁していることの表れであろう。

当科では常に卒前・卒後教育の充実に力を入れており、学生ならびに研修医からの評価はきわめて高く、毎年10名を越す新入の医局員が仲間に加わり、医局全体がますます活性化している。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) Goda K, Tajiri H, Ikegami M, Dobashi A, Yoshimura N. Clinical impact of narrow-band imaging magnifying endoscopy for 'basal layer type squamous cell carcinoma' in the esophagus. *Dig Endosc* 2011; 23 (Suppl. 1) : 75-8.
- 2) Saito S, Tajiri H, Ohya T, Nikami T, Aihara H, Ikegami M. The benefit of using narrow-band imaging systems for observation of capillary networks before determining of treatments for early colon cancer. *Dig Endosc* 2011; 23 (Suppl. 1) : 120-5.
- 3) Kato M, Kaise M, Obata T, Yonezawa J, Toyozumi H, Yoshimura N, Yoshida Y, Kawamura M, Tajiri H. Bacteremia and endotoxemia after endoscopic submucosal dissection for gastric neoplasia: pilot study. *Gastric Cancer* 2012; 15(1) : 15-20.
- 4) Aihara H, Ikeda K, Tajiri H. Image-enhanced capsule endoscopy based on the diagnosis of vascularity when using a new type of capsule. *Gastrointest Endosc* 2011; 73(6) : 1274-9.
- 5) Hiki N, Kaminishi M, Yasuda K, Uedo N, Honjo H, Matsuhashi N, Hiratsuka T, Sekine C, Nomura S, Yahagi N, Tajiri H, Suzuki H. Antiperistaltic effect and safety of L-menthol sprayed on the gastric mucosa for upper GI endoscopy: a phase III, multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled study. *Gastrointest Endosc* 2011; 73(5) : 932-41.
- 6) Aizawa M, Tsubota A, Fujise K, Tatsuzawa K, Kono M, Hoshina S, Tajiri H. Clinical course and predictive factors of virological response in long-term lamivudine plus adefovir dipivoxil combination therapy for lamivudine-resistant chronic hepatitis B patients. *J Med Virol* 2011; 83(6) : 953-61.
- 7) Hiki N, Kaminishi M, Tanabe S, Fujisaki J, Yoshino J, Iguchi M, Kobayashi H, Ashida K, Kawabe T, Nomura S, Yahagi N, Tajiri H, Suzuki H. An open-label, single-arm study assessing the efficacy and safety of L-menthol sprayed onto the gastric mucosa during upper gastrointestinal endoscopy. *J Gastroenterol* 2011; 46(7) : 873-82.
- 8) Takakura K, Sumiyama K, Munakata K, Ashida H, Arihiro S, Kakutani H, Tajiri H. Clinical usefulness of diffusion-weighted MR imaging for detection of pancreatic cancer: comparison with enhanced multidetector-row CT. *Abdom Imaging* 2011; 36(4) : 457-62.
- 9) Takahara A, Koido S, Ito M, Nagasaki E, Sagawa Y, Iwamoto T, Komita H, Ochi T, Fujiwara H, Yasukawa M, Mineno J, Shiku H, Nishida S, Sugiyama H, Tajiri H, Homma S. Gemcitabine enhances Wilms' tumor gene WT1 expression and sensitizes human pancreatic cancer cells with WT1-specific T-cell-mediated antitumor immune response. *Cancer Immunol Immunother* 2011; 60(9) : 1289-97.
- 10) Rey JF, Ogata H, Hosoe N, Ohtsuka K, Ogata N, Ikeda K, Aihara H, Pangtay I, Hibi T, Kudo SE, Tajiri H. Blinded nonrandomized comparative study of gastric examination with a magnetically guided capsule endoscope and standard videoendoscopy. *Gastrointest Endosc* 2012; 75(2) : 373-81.
- 11) Kinoshita A, Onoda H, Takano K, Imai N, Saeki C, Fushiya N, Miyakawa Y, Nishino H, Tajiri H. Pre-treatment serum C-reactive protein level predicts poor prognosis in patients with hepatocellular carcinoma. *Med Oncol* 2012; 29(4) : 2800-8. Epub 2012 Mar 30.
- 12) Tamai N, Saito Y, Sakamoto T, Nakajima T, Matsuda T, Vikneswaran N, Tajiri H. Visualization of laterally spreading colorectal tumors by using image-enhanced endoscopy. *Gastroenterol Res Pract* 2012; 2012 : 638391.
- 13) Imazu H, Kanazawa K, Ikeda K, Kakutani H, Sumiyama K, Ang TL, Omar S, Tajiri H. Initial evaluation of a novel multibending backward-oblique viewing duodenoscope in endoscopic retrograde cholangiopancreatography. *Endoscopy* 2012; 44(1) : 99-102.
- 14) Koido S, Homma S, Takahara A, Namiki Y, Komita H, Uchiyama K, Ito M, Gong J, Ohkusa T, Tajiri H. Immunotherapy synergizes with chemotherapy tar-

- geting pancreatic cancer. *Immunotherapy* 2012 ; 4(1) : 5-7.
- 15) Yoshimura N, Goda K, Tajiri H, Yoshida Y, Kato T, Seino Y, Ikegami M, Urashima M. Diagnostic utility of narrow-band imaging endoscopy for pharyngeal superficial carcinoma. *World J Gastroenterol* 2011 ; 17(45) : 4999-5006.
- 16) Imazu H, Ikeda K, Kakutani H, Sumiyama K, Kawamura M, Kanazawa K, Hino S, Ang TL, Omar S, Tajiri H. A pilot study of the novel offset-tip papillotome for selective biliary cannulation in ERCP. *Minim Invasive Ther Allied Technol* 2012 ; 21(5) : 335-41. Epub 2011 Nov 18.
- 17) Ishiguro H, Saito S, Imazu H, Aihara H, Kato T, Tajiri H. Esophageal capsule endoscopy for screening esophageal varices among Japanese patients with liver cirrhosis. *Gastroenterol Res Pract* 2012 ; 2012 : 946169.
- 18) Arai Y, Arihiro S, Ide D, Odagi I, Itagaki M, Komoiike N, Nakao Y, Takakura K, Saruta M, Matsuoka M, Kato T, Tajiri H. Acute pancreatitis due to pH-dependent mesalazine that occurred in the course of ulcerative colitis. *Case Rep Gastroenterol* 2011 ; 5(3) : 610-6.
- 19) Hiki N, Kaminishi M, Yasuda K, Uedo N, Kobari M, Sakai T, Hiratsuka T, Ohno K, Honjo H, Nomura S, Yahagi N, Tajiri H, Suzuki H. Multicenter phase II randomized study evaluating dose-response of anti-peristaltic effect of L-menthol sprayed onto the gastric mucosa for upper gastrointestinal endoscopy. *Dig Endosc* 2012 ; 24(2) : 79-86.
- 20) Ohya TR, Sumiyama K, Takahashi-Fujigasaki J, Dobashi A, Saito S, Tajiri H. *In vivo* histologic imaging of the muscularis propria and myenteric neurons with probe-based confocal laser endomicroscopy in porcine models (with videos). *Gastrointest Endosc* 2012 ; 75(2) : 405-10.
- 21) Kaise M, Miwa J, Tashiro J, Ohmoto Y, Morimoto S, Kato M, Urashima M, Ikegami M, Tajiri H. The combination of serum trefoil factor 3 and pepsinogen testing is a valid non-endoscopic biomarker for predicting the presence of gastric cancer : a new marker for gastric cancer risk. *J Gastroenterol* 2011 ; 46(6) : 736-45.
- 22) 大塚和朗, 緒方晴彦, 池田圭一, 小形典之, 細江直樹, 相原弘之, 日比紀文, 田尻久雄, Rey Jean-Francois, 工藤進英. 【胃内視鏡検診 - 適正な受診間隔と対象年齢】新型カプセル内視鏡による胃検診の可能性. *消化器内科* 2011 ; 53(2) : 163-6.
- 23) 二上敏樹, 齋藤彰一, 石井宏則, 小林裕彦, 三戸部慈実, 相原弘之, 安部 宏, 田尻久雄, 池上雅博. 【大腸 SM 癌に対する内視鏡治療の適応拡大】 主題大腸 pSM 癌に対する内視鏡治療根治基準の拡大 リンパ節転移予測因子に関する検討 特殊染色による脈管侵襲判定を中心に. *胃と腸* 2011 ; 46(10) : 1459-68.

## II. 総 説

- 1) Koido S, Homma S, Takahara A, Namiki Y, Tsukinaga S, Mitobe J, Odahara S, Yukawa T, Matsudaira H, Nagatsuma K, Uchiyama K, Satoh K, Ito M, Komita H, Arakawa H, Ohkusa T, Gong J, Tajiri H. Current immunotherapeutic approaches in pancreatic cancer. *Clin Dev Immunol* 2011 ; 2011 : 267539.
- 2) Aihara H, Tajiri H, Suzuki T. Application of autofluorescence endoscopy for colorectal cancer screening: rationale and an update. *Gastroenterol Res Pract* 2012 ; 2012 : 971383.
- 3) 相原弘之, 齋藤彰一, 二上敏樹, 田尻久雄, 池上雅博. 【進むべきか引くべきか胃と大腸の SM 癌 - ESD 時代の術前診断と治療戦略】[大腸 SM 癌の診断と治療] 大腸 SM 癌を評価するための内視鏡精査. *消内視鏡* 2011 ; 23(5) : 937-43.
- 4) 有廣誠二, 加藤智弘, 田尻久雄. 【ここまでみえるようになった小腸内視鏡検査】小腸病変の治療. 2012 ; 29(2) : 68-77.
- 5) 荒川廣志, 貝瀬 満, 小林 剛, 郷田憲一, 小井戸薫雄, 角谷 宏, 大草敏史, 田尻久雄, 河合良訓, 鈴木大輔, 藤宮峯子. 【食道胃接合部病変をめぐる新知見】[食道胃接合部の構造と機能の新知見] 食道胃接合部の肉眼解剖学. *消内視鏡* 2011 ; 23(12) : 2062-70.
- 6) 猿田雅之, 田尻久雄. 【内科医の腕の見せどころ 下痢・便秘の診療】下痢・便秘へのアプローチ 院内で発症した下痢・便秘への対応. *月刊レジデント* 2011 ; 4(11) : 37-48.
- 7) 田尻久雄. 大腸カプセル内視鏡検査の現状と課題. *Gastroenterol Endosc* 2011 ; 53(9) : 2988-9.
- 8) 加藤正之, 貝瀬 満, 田尻久雄. 【胃びらん・発赤 - どうすればわかる良性・悪性】内視鏡モダリティ別での鑑別の要点 NBI 拡大内視鏡での良悪性鑑別. *消内視鏡* 2011 ; 23(10) : 1730-8.
- 9) 小井戸薫雄, 本間 定, 高原映崇, 込田英夫, 大草敏史, 田尻久雄. 【膵癌診療と研究の最先端】進行膵癌に対する Gemcitabine 併用 WT1 標的免疫療法の意義. *胆と膵* 2011 ; 32(9) : 887-91.

## III. 学会発表

- 1) 中野真範, 穂苺厚史, 高橋宏樹, 田尻久雄. 自己免疫性肝炎の病態形成への肝内 NKT 細胞の関与. 第 97

- 回日本消化器病学会総会. 東京, 5月.
- 2) Tajiri H. Endoscopic imaging: Past, present, future. 中華民国 101 年消化系聯合學術演講年會. Taipei, Mar.
  - 3) Itagaki M, Saruta M, Saijou H, Mitobe J, Arihiro S, Matsuoka M, Kato T, Tajiri H. Efficacy of enemas with a Zinc-containing compound, Polaprezinc, in patients with ulcerative colitis. UEGW (United European Gastroenterology Week) 2011, Stockholm, Oct.
  - 4) 石黒晴哉, 石川智久, 石田仁也, 銭谷幹男, 大石睦美, 岩久 章, 杉田知典, 横須賀淳, 中野真範, 相澤摩周, 北原拓也, 鳥巢勇一, 天野克之, 穂苺厚史, 高木一郎, 田尻久雄. 肝硬変における栄養介入前の食物摂取状況調査の必要性. 第 15 回日本肝臓学会大会. 福岡, 10月.
  - 5) 木下晃吉, 千葉允文, 小田木勲, 小林 剛, 佐伯千里, 及川恒一, 小林裕彦, 伏谷 直, 坂部俊一, 木島洋征, 小野田泰, 宮川佳也, 西野博一, 益井芳文, 田尻久雄. 肝細胞癌の予後予測診断における CRP, GPS の有用性. 第 15 回日本肝臓学会大会. 福岡, 10月.
  - 6) 小野田泰, 佐伯千里, 及川恒一, 木下晃吉, 伏谷 直, 千葉允文, 小林 剛, 小野田勲, 小林裕彦, 坂部俊一, 木島洋征, 宮川佳也, 西野博一, 田尻久雄. 非 B 非 C 型肝細胞癌症例の臨床的特徴及び予後の検討. 第 15 回日本肝臓学会大会. 福岡, 10月.
  - 7) 有廣誠二, 加藤智弘, 荒井吉則, 板垣宗徳, 菰池信彦, 小田木勲, 猿田雅之, 松岡美佳, 田尻久雄. 当院におけるバルーン内視鏡を用いた消化管狭窄病変に対する拡張術の検討. 第 82 回日本消化器内視鏡学会総会. 福岡, 10月.
  - 8) 三戸部慈実, 池上雅博, 田尻久雄. 大腸 pSM 癌のリンパ節転移予測因子の検討. 特に脈管侵襲の評価を中心に. 第 82 回日本消化器内視鏡学会総会. 福岡, 10月.
  - 9) 猿田雅之, 有廣誠二, 板垣宗徳, 菰池信彦, 荒井吉則, 松岡美佳, 加藤智弘, 田尻久雄. クロウン病の狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術後の Infliximab による再狭窄予防の検討. 第 29 回日本大腸検査学会総会. 東京, 9月.
  - 10) 中尾 裕, 池上雅博, 田尻久雄. 鋸歯状構造を有する大腸腫瘍性病変の画像強調観察と免疫染色を用いた発育様式の検討. 第 81 回日本消化器内視鏡学会総会. 名古屋, 8月.
  - 11) 中野真範, 中川 良, 佐伯千里, 及川恒一, 高橋宏樹, 本間 定, 田尻久雄, 銭谷幹男. 自己免疫性肝傷を惹起する自己反応性 CD8+T 細胞の活性化と肝内誘導には肝内活性化 NKT 細胞が関与する. 第 47 回日本肝臓学会総会. 東京, 6月.
  - 12) 天野克之, 鳥巢勇一, 銭谷幹男, 水野雄介, 岩久 章, 大石睦美, 杉田知典, 横須賀淳, 相澤摩周, 北原拓也, 小池和彦, 石川智久, 穂苺厚史, 高木一郎, 田尻久雄. 原発性胆汁性肝硬変 (PBC) 患者の長期予後に関する検討. 第 47 回日本肝臓学会総会. 東京, 6月.
  - 13) 相澤摩周, 鳥巢勇一, 北原拓也, 佐藤憲一, 天野克之, 穂苺厚史, 石川智久, 坪田昭人, 藤瀬清隆, 田尻久雄. ラミブジン・アデフォビル併用療法後の B 型慢性肝炎患者に対するアデフォビル単剤切り替え投与の長期抗ウイルス維持効果の検討. 第 47 回日本肝臓学会総会. 東京, 6月.
  - 14) 北原拓也, 石川智久, 銭谷幹男, 岩久 章, 大石睦美, 横須賀淳, 杉田知典, 中川 良, 会田雄太, 石田仁也, 相澤摩周, 鳥巢勇一, 天野克之, 穂苺厚史, 高木一郎, 田尻久雄. ウイルス慢性肝炎における組織学的活動性と血液生化学検査との乖離. 第 97 回日本消化器病学会総会. 東京, 5月.
  - 15) 安部 宏, 会田雄太, 木村貴純, 石黒晴哉, 二上敏樹, 吉澤 海, 須藤 訓, 相澤良夫, 田尻久雄. 自己免疫性肝疾患に合併した肝細胞癌の臨床的特徴. 第 97 回日本消化器病学会総会. 東京, 5月.
  - 16) Nakao Y, Saito S, Ohya T, Aihara H, Nikami T, Tajiri H, Ikegami M. Image-enhanced endoscopy in the differential diagnosis of colorectal serrated lesions. Digestive Disease Week 2011. Chicago, May.
  - 17) 鳥巢勇一, 石川智久, 銭谷幹男, 北原拓也, 木下晃吉, 水野雄介, 大石睦美, 岩久 章, 横須賀淳, 杉田知典, 中川 良, 相澤摩周, 天野克之, 小池和彦, 穂苺厚史, 田尻久雄. 自己免疫性肝炎における組織学的病勢病期と臨床背景の比較検討. 第 47 回日本肝臓学会総会. 東京, 6月.
  - 18) 田中 賢, 松浦知和, 松本喜弘, 永妻啓介, 齋藤藤也, 石井博尚, 石井雄二, 島田孝夫, 中田浩二, 池脇克則, 高木一郎, 田尻久雄, 鈴木政登. 空腹時 <sup>13</sup>C-glucose 呼吸試験を用いた非侵襲肝臓糖代謝評価法の開発. 第 47 回日本肝臓学会総会. 東京, 6月.
  - 19) 小池和彦, 伊坪真理子, 水野雄介, 杉田知典, 田尻久雄. 膵臓癌診断における MRI 拡散強調画像 (DWI) の有用性. 第 97 回日本消化器病学会総会. 東京, 5月.
  - 20) 菰池信彦, 伊藤善翔, 天野克之, 宮崎民浩, 荒井吉則, 板垣宗徳, 中尾 裕, 高倉一樹, 小田木勲, 猿田雅之, 有廣誠二, 小池和彦, 松岡美佳, 加藤智弘, 田尻久雄, 池上雅博, 岩下悦郎. サーベイランス後 10ヶ月で多発肝転移を伴う直腸癌を合併した潰瘍性大腸炎の一例. 第 97 回日本消化器病学会総会. 東京, 5月.

#### IV. 著 書

- 1) 松田浩二, 田尻久雄. I. 総論 2. 内視鏡検査の適応と禁忌. 田尻久雄監修, 長南明道 (仙台厚生病院),

田中信治 (広島大学), 武藤 学 (京都大学) 編. 内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像: 上部消化管. 改訂第3版. 東京: 日本メディカルセンター, 2011. p.27-32.

2) 荒川廣志, 田尻久雄. I. 総論 3. 内視鏡検査の準備. 田尻久雄監修, 長南明道 (仙台厚生病院), 田中信治 (広島大学), 武藤 学 (京都大学) 編. 内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像: 上部消化管. 改訂第3版. 東京: 日本メディカルセンター, 2011. p.33-44.

3) Koido S, Homma S, Takahara A, Namiki Y, Komita H, Uchiyama K, Ohkusa T, Tajiri H. Chapter13: Immunotherapy for pancreatic cancer. In: Srivastava SK, editor. Pancreatic cancer: Molecular mechanism and targets. Rijeka: InTech. 2012. p.225-44.

## V. その他

1) Takakura K, Kajihara M, Sasaki S, Nagano T, Ohta A, Ikegami M, Eto K, Kashiwagi H, Yanaga K, Arihiro S, Kato T, Tajiri H. Use of balloon enteroscopy in preoperative diagnosis of neurofibromatosis-associated gastrointestinal stromal tumours of the small bowel: a case report. Case Rep Gastroenterol 2011; 5(2): 308-14.

2) 石黒晴哉, 木村貴純, 二上敏樹, 吉澤 海, 安倍 宏, 須藤 訓, 相澤良夫, 酒田昭彦, 田尻久雄. 経過観察中に全身性エリテマトーデスを発症した, 肝細胞がん合併原発性胆汁性肝硬変の1例. 肝臓 2011; 52(10): 679-86.

3) 田村休応, 荒川廣志, 月永真一郎, 小田原俊一, 湯川豊一, 松平 浩, 高原映崇, 永妻啓介, 内山 幹, 佐藤憲一, 古谷 徹, 小井戸薫雄, 大草敏史, 角谷 宏, 池上雅博, 田尻久雄. 腹腔鏡下切除を施行した胃 inverted hyperplastic polyp の1例. Prog Dig Endosc 2011; 79(2): 70-1.

4) Itagaki M, Saruta M, Iinuma T, Arihiro S, Kato T, Tajiri H. Infliximab- and immunosuppressant-resistant Crohn's disease successfully treated with adsorptive granulocyte apheresis combined with prednisolone. Case Rep Gastroenterol 2012; 6(1): 118-23.

5) Arai Y, Kato T, Arihiro S, Itagaki M, Komoike N, Odagi I, Saruta M, Matsuoka M, Suzuki T, Tajiri H. Utility of single balloon enteroscopy (SBE) for difficult cases of total colonoscopy. J Interv Gastroenterol 2012; 2(1): 12-4.

## 神 経 内 科

教授: 持尾聰一郎	自律神経
教授: 岡 尚省	自律神経
准教授: 栗田 正	神経生理
講師: 松井 和隆 (全日空へ出向)	脳血管障害
講師: 鈴木 正彦	神経核医学
講師: 谷口 洋	嚥下障害
講師: 豊田千純子	変性疾患

### 教育・研究概要

#### I. 変性疾患

##### 1. Parkinson 病 (PD) 患者の振戦の治療に関する研究

PD 患者および健常者の手関節部における運動回数を, Actigraph を用いて定量的に測定した。姿勢時および静止時の振戦に対して zonisamide 25mg の投与前と投与 1, 3, 6 ヶ月後で経過を観察した。

##### 2. PD 関連疾患の姿勢異常に関する多施設共同研究

PD 関連疾患患者の姿勢異常を写真上計測し, 本疾患群における姿勢異常の実態を明らかにすることを目的に, 関東地方の 15 の大学附属病院において多施設共同研究を実施した。

##### 3. PD 関連疾患の嗅球の形態学的検討

PD 関連疾患患者に嗅覚検査と頭部 MRI, <sup>123</sup>I-MIBG 心筋シンチグラフィを実施し, 嗅球体積測定が PD 関連疾患の鑑別に有効か検討した。

##### 4. 神経変性疾患の自律神経機能障害の検討

<sup>123</sup>I-MIBG 心筋シンチグラフィと Valsalva 試験により PD の心血管系自律神経機能障害の研究を行った。また, PD の嗅覚障害について, 嗅覚検査法 (OSIT-J) を用いて評価し, 他の自律神経機能障害との関連について検討した。

##### 5. PD における疲労と臨床的要因との関連

PD 患者で Parkinson Fatigue Scale (PFS-16) を用いて疲労と臨床的要因との関連を臨床病型別に検討した。PFS-16, 年齢, 罹病期間, Unified Parkinson's Disease Rating Scale (UPDRS), 起立試験での血圧変化 ( $\Delta$ systolic blood pressure (SBP)), <sup>123</sup>I-MIBG 心筋シンチグラフィ, Coefficient variation of RR intervals (CVR-R) を評価した。

##### 6. 認知症を伴う PD (PDD), レビー小体型認知症 (DLB) における幻視と視覚情報処理機能の関係に関する神経生理学的検討